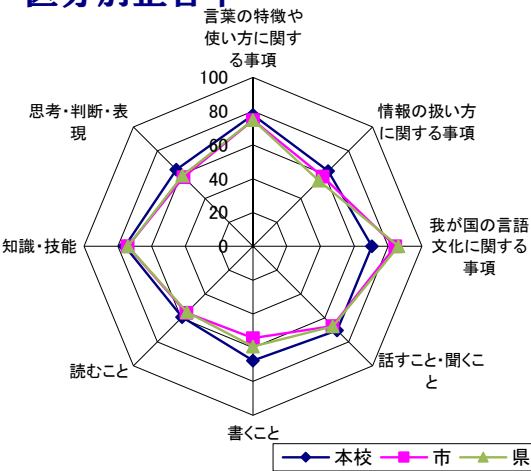


宇都宮市立雀宮東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	77.8	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	63.0	58.4	55.0
	我が国の言語文化にに関する事項	70.4	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	70.4	66.7	66.9
	書くこと	67.6	54.3	59.3
	読むこと	59.3	55.6	55.2
観点	知識・技能	75.8	74.1	74.0
	思考・判断・表現	64.1	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

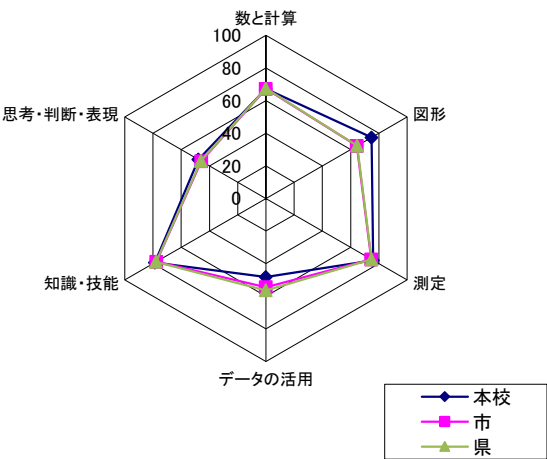
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市や県より高い。 ○「第3学年に配当されている漢字を正しく書くことができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。宿題や自主学習で、漢字練習に継続して取り組んできた成果であると考えられる。 ●「第3学年に配当されている漢字を正しく読む」問いでは、県の正答率より低く、課題が見られる。 ●「ローマ字表記されたものを正しく読むことができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より低く、課題が見られる。	・新出漢字の指導では、繰り返し漢字練習をしたり、AIDリルを活用したりすることで定着を図る。また、既習の漢字は、他の教科においても、積極的に使うようにし、様々な場面で日常的に使えるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市や県より高い。 ○「国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。学習に国語辞典を積極的に活用している成果であると考えられる。	・国語の授業だけでなく、どの教科においても、分からない言葉が出てきたときには積極的に辞書を活用する。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市や県より低い。 ●「漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解しているかどうかをみる」問いでは、県の正答率より低く、課題が見られる。	・新出漢字を学ぶ学習では、へんやつくりを意識できるように指導し、既習の漢字においても、へんやつくりによる仲間集めをする機会を、意図的に設定する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や県より高い。 ○「相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話すことができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。国語の授業だけでなく、他教科にわたり、自分の考えや思いを話す場面を、意図的に設定している成果であると考えられる。 ●「話し手が伝えたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より低く、課題が見られる。	・学級活動、朝の会、帰りの会などにおいて、スピーチや話し合い活動を積極的に取り入れ、発表する力を育てる。また、自分の考えを話すことに自信をもたせたり、話すことに喜びを感じたりする場面を意図的に設定する。 ・授業で、自分の考えを発表する場面を意図的に設け、話す機会を増やす。 ・段階を踏んで自分の考えを伝える練習を行い、理由を挙げて話すことができるようにする。 ・話し合い活動では、相手が伝えたいことは何かを考え、その内容に合うよう、自分の考えを話すことができるようにする。
書くこと	平均正答率は、市や県より高い。 ○「指定された長さで文章を書くことができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。 ○「自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書くことができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。国語の授業だけでなく、宿題で作文指導を継続して行っている成果であると考えられる。	・学校統一で行っている日記・作文指導で、指定された文字数で文章を書く練習を繰り返す。 ・授業で、「理由や事例を挙げているか」など、ポイントを意識した文を書かせる。また、読み直して、言いたいことが伝わるか確認するようしたり、友達と読み合って、言いたいことが伝わっているか確認したりする。

読むこと	平均正答率は、市や県より高い。 ○「情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて、要約することができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。 ○「段落の内容を捉え、前半と後半に分ける」問いでは、県の正答率より高い。これは、説明文の学習で、段落の内容を読み取り、文章の構成を捉えられることができるよう、学習に取り組んでいる成果であると考えられる。 ●「登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えることができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より低く、課題が見られる。	・物語文や説明文の学習では、登場人物の心情を読み取ったり、段落の内容を読み取ったりする時間を十分に確保する。 ・プリント学習で、教科書に出てくる物語文や説明文以外の文章を読んで、問題を解く機会を設定する。 ・引き続き、朝の読書の時間や読書週間、家読などを通して、読書の習慣を定着させる。また、物語文や説明文など、ジャンルを問わず、様々な文章に親しませる。
------	---	--

宇都宮市立雀宮東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.3	67.3	67.4
	図形	74.8	64.5	64.7
	測定	75.9	74.7	74.9
	データの活用	48.2	54.4	56.4
観点	知識・技能	78.7	77.6	77.8
	思考・判断・表現	47.8	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

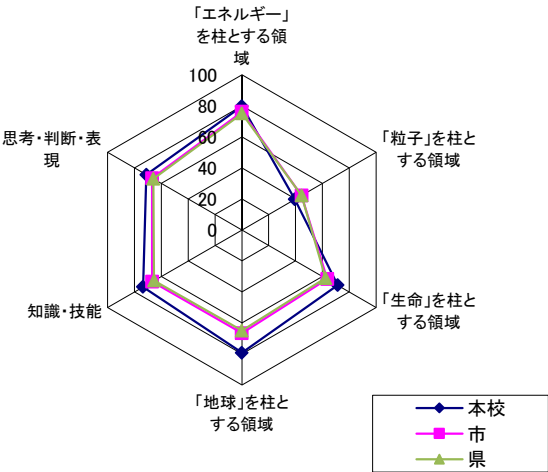
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市や県とほぼ同じである。 ○「整数－小数第一位の計算ができるかどうかみる」問いでは、県の正答率より高い。計算ドリルやAIドリルを活用して、計算問題を数多く解いてきた成果であると考えられる。 ○「文章問題を解くために除法の立式をすることができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。文章問題で、数量の関係を数直線に表して整理したり、計算の仕方を考える問題で、グループで説明し合ったりする活動を、継続的に行ってきた成果であると考えられる。 ●「分数の大きさを理解しているかどうかをみる」問いや、「数直線で、目盛りが表す数の大きさについて理解し、分数で表すことができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より低く、課題が見られる。	・朝の学習の時間を活用し、今後もプリントやAIドリルに継続して取り組むことで、基礎的事項の定着を図る。 ・テープ図を利用して分数の大きさを表したり、数直線上で、様々な大きさの分数を表したりすることで、分数の基礎的な概念について理解できるようにする。
図形	平均正答率は、市や県よりも高い。 ○「半径と直径について理解し、球の性質を利用し、長さを求めることができるかをみる」問いや「円の中心とコンパスの使い方について理解しているかどうかをみる」問いでは、県の正答率よりも高い。デジタル教科書や実物投影機を活用して、図形への理解が深まったことによる成果であると考えられる。 ●「二等辺三角形を作図することができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率よりも低く、課題が見られる。	・教室背面の学習コーナーに、図形の性質などを掲示することで、既習事項の振り返りができるようにする。 ・コンパスの基礎的な使い方をよく理解し、様々な形をかいたことで、円の半径とコンパスの使い方についての理解につながった。今後もコンパスの操作や作図を繰り返すことにより、定着を図る。 ・円だけでなく、三角形に関しても、コンパスを使って作図ができるよう復習し、繰り返し作図することで、定着を図る。
測定	平均正答率は、市や県よりもやや高い。 ○「はかりの目盛りを読み取り、重さを答えられるかどうかを見る」問いでは、県の正答率よりも高い。 ●「時間が経過する前の時刻を求めることができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率よりも低く、課題が見られる。	・具体物を操作する活動を多く取り入れることで、「測定」に関する感覚を育てられるようにする。 ・朝の学習の時間を活用し、プリントやAIドリルに継続して取り組むことで、「時刻」「長さ」「重さ」などの基礎的事項の定着を図る。
データの活用	平均正答率は、市や県よりも低い。 ●「2つの棒グラフで、1目盛りの数が異なることに注意しながら、棒グラフを読み取ることができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率よりも低く、課題が見られる。	・授業で生活に関わるデータを取り上げ、グラフに表して考察するなど、データを扱うことの有用性を感じられるようにする。 ・実際にグラフに表す際に、自分の集めたデータに適した目盛りの表し方について考えさせることで、それぞれのグラフによって、目盛りの大きさに違いがあることに気付かせるようにする。

宇都宮市立雀宮東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	79.8	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	39.5	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	71.4	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	79.3	66.6	64.9
観点	知識・技能	73.6	66.8	65.4
	思考・判断・表現	71.2	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市や県より高い。 ○「実験結果の、ゴムをのばす長さや車の動く距離の関係から、ゴムをのばす適切な長さを推測できるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。 ○「車が動いた距離から送風機の風の強さを推測できるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。 これらは、セット教材を活用し、実験方法を工夫することにより、興味関心を高めて授業を行うことができた成果であると考えられる。 ●「鉄くぎが磁石になったことを確かめる方法を考えることができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より低く、課題が見られる。 ●「実験の目的に応じた記録の表し方を理解しているかどうかをみる」問いでは、県の正答率より低く、課題が見られる。	・風とゴムの力のはたらきについての内容は、十分に理解しているため、今後は復習プリントを活用して発展的な問題に取り組ませたい。 ・磁石についての理解が不十分なため、復習プリントで基礎的事項の定着を図る。 ・授業で、実験を行う際に、実験の記録や分かったことをノートにまとめる活動を充実させ、深い理解につなげる。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市や県より低い。 ●「ものの重さから、同じ種類のものでできている積み木を推測できるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より低く、課題が見られる。 ●「姿勢を変えて測った体重が変化するかを、実験の結果をもとに記述できるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より低く、課題が見られる。	・ものの重さの概念への理解が十分ではないため、復習プリントで基礎的事項の定着を図る。 ・実際に姿勢を変えて体重を図ったり、同じ体積で材質の違う物の重さを予想しながら推測したりするなど、実体験をもとに理解できるような授業を展開する。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市や県より高い。 ○「クモが昆虫ではない理由を記述できるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。 ○「昆虫の体のつくりの特徴を理解しているかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。 ○「ホウセンカの成長について理解しているかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。 これらは、生き物や植物を観察する時間を多く確保し、観察する視点を丁寧に指導している成果であると考えられる。 ●「虫眼鏡の使い方を身に付けているかどうかをみる」問いでは、県の正答率より低く、課題が見られる。	・昆虫や植物についての内容について十分に理解しているため、今後は復習プリントを活用して発展的な問題に取り組ませる。 ・道具や実験機器を使用する授業では、実験の度に、繰り返しそれらの使い方を説明してから実験に臨むことができるよう、授業を展開する。

「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市や県より高い。 ○「温度計の使い方を身に付けているかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。実際に温度計を使う場面を多く取り入れてきた成果であると考えられる。 ○「太陽の位置の変化を方位で理解しているかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。 ○「観察の記録から、かげと太陽の位置の関係を読み取ることができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。実験結果から分かることについて考える時間を十分に与えたり、話し合ったりすることで、知識の定着を図ることができたと考えられる。	・かげと太陽についての内容は、十分に理解しているので、今後は復習プリントを活用して、発展的な問題に取り組ませる。 ・体験できる機会を設定することや、条件や時期により観察が困難である分野は、映像資料を活用して理解が深まるよう、授業を展開する。
--------------------	---	--

宇都宮市立雀宮東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の復習をしている。」と回答した児童の割合は(92.6%)で市の平均と比べると29ポイント高く、昨年度と比べても15ポイント以上高い。家庭学習ファイルの取組や年2回のパワーアップウィークで家庭学習の充実を図ったことにより、児童が家庭学習をする習慣がついていると考えられる。今後も、取組を続けるほか、家庭学習の時間や内容にも着目して、充実した家庭学習ができるように働きかけていきたい。

○1か月での読書量について、5冊以上本を読んでいる児童の割合は(70.3%)で市の平均と比べると22ポイント以上高く、毎週末の宿題で読書活動を取り入れたり、校内読書週間で読書ビンゴやクイズ、読み聞かせなど、図書委員会を中心とした、読書を広める活動をしたりすることにより、読書に親しむ児童の育成に努めている成果であると考えられる。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている。」と回答した児童の割合は(70.4%)で市の平均と比べると12ポイント以上高く、授業や特別活動で積極的に1人1台端末を活用してきた成果であると考えられる。今後は、インターネットを活用する際、正しい情報の判別や情報モラルの醸成を意識した指導の充実を図っていきたい。

○「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」と全員が回答した。「学習の目標を明示する」などの授業の流れや学習用具の取り扱いについて定めた「学習スタンダード」で、学校全体で統一した指導が行われており、授業者が代わっても、違和感なく授業が受けられる環境が整っている。今後も、学校全体で質の高い教育が行えるように努めていきたい。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」と回答した児童の割合は(85.1%)で市の平均と比べると19ポイント以上高く、当番活動や係活動などの特別活動の充実や帰りの会で児童の善い行いを教師や児童が発表する「今日のにっこりさん」の取組により、児童の自尊感情が高まっていると考えられる。今後も、児童同士が認め合える雰囲気醸成を目指していきたい。

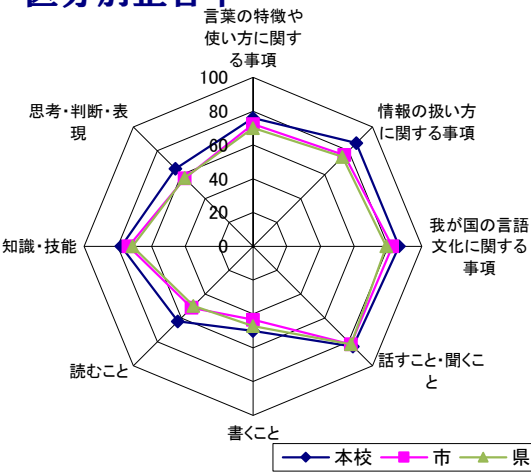
●「ぎ問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」と回答した児童の割合は(74.1%)で、市や県の平均と比べて高いものの、他の質問に比べると、否定的回答が多く、課題が見られる。児童の興味関心を大切に引き上げ、探究活動を多く取り入れるような指導の充実を図っていきたい。

●教科別に学習が好きかどうかについての質問では、算数に対して否定的な回答をした児童の割合は(22.2%)で、他教科と比べると著しく多い傾向にあり、算数が好きな児童との二極化が見られる。問題が解けないことで苦手意識をもち、好きではなくなってきたと考えられる。分からない問題をそのままにせず、家庭と学校で連携し、できるようになるまで粘り強く学習ができるように支援していきたい。

宇都宮市立雀宮東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	76.0	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	86.5	76.4	74.9
	我が国の言語文化にに関する事項	86.5	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	83.8	81.9	82.0
	書くこと	50.0	43.5	47.2
	読むこと	62.8	51.4	49.8
観点	知識・技能	77.9	73.6	71.3
	思考・判断・表現	64.9	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

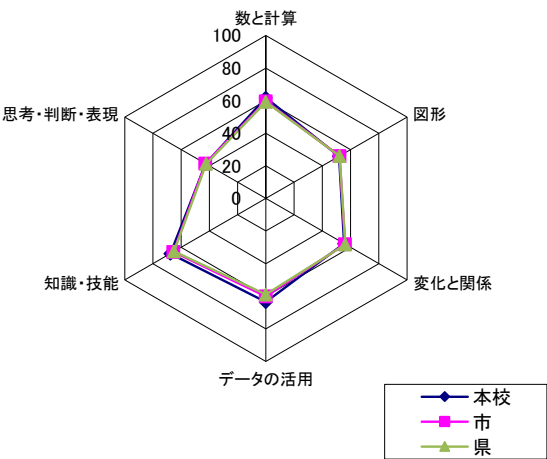
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市や県より高い。 ○「第4学年に配当されている漢字を正しく書くことができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。漢字ミニテストを継続的に行い、基礎基本の定着を図っている成果であると考えられる。 ●「文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より低い問いがあり、課題が見られる。	・朝の学習や家庭学習で、5年生で学ぶ漢字だけでなく、前年度までに習った漢字も含め、既習漢字の定着を図っていく。 ・授業で主述・修飾被修飾の関係などの言葉の決まりについて意図的に考えさせ、作文するときに活用できるよう指導していく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市や県より高い。 ○「漢字辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。新しい単元に入った際の語句の意味調べを、継続している成果であると考えられる。	・新しい単元では、語句の意味調べの課題を出すなど、引き続き語彙力が高まるよう指導していく。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市や県より高い。 ○「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。ことわざに関する本を読む機会を増やしている成果であると考えられる。	・図書館利用時などを活用し、引き続きことわざに触れる機会を増やす。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や県より高い。 ○「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。話し合いの際には注意深く聞くことの意義を、継続して指導している成果であると考えられる。 ●「司会の役割を果たしながら話し合い、意見の共通点に着目して、考えをまとめることができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より低く、課題が見られる。	・国語の授業だけでなく、他教科にわたり、相手の話の意図を考えながら聞くよう、継続して指導する。 ・国語や学級活動の話し合い活動において、各自が司会や記録などの様々な役割を果たせるよう意図的に指導する。
書くこと	平均正答率は、市や県より高い。 ○「内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書くことができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。要旨をまとめたり、短く文章を書いたりする指導を、継続している成果であると考えられる。 ●「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より低く、課題が見られる。	・自分の考えを文章にまとめたり、友達の書いた文章の要旨を考える機会を設定したりして、日頃から文章に親しませる。 ・作文の授業では、文章を段落に分けると自分の伝えたいことが整理できたり、読み手に伝わるようになったりすることに気付くよう、指導する。 ・宿題で行っている作文指導を、今後も継続して行う。

読むこと	平均正答率は、市や県より高い。 ○「叙述を基に文章の内容を捉えることができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。 ○「登場人物の性格について、具体的に想像することができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。物語文を教材とした読むことの学習において、叙述を基にした感情の読み取りを強調して指導している成果であると考えられる。	・物語文読解の学習では、叙述を基に登場人物の心情を考える時間を十分にとる。 ・読書活動や家読も引き続き推進して、様々なジャンルの本に触れる機会を意図的に取り入れる。
------	--	--

宇都宮市立雀宮東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.8	59.7	59.2
	図形	51.8	52.1	52.1
	変化と関係	55.4	56.1	56.3
	データの活用	63.5	60.1	58.9
観点	知識・技能	67.7	65.5	65.1
	思考・判断・表現	42.7	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

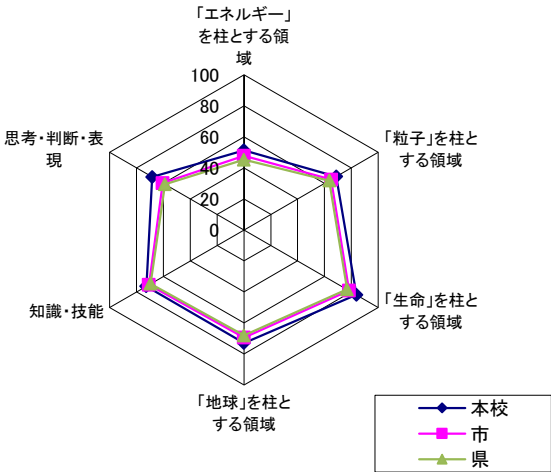
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市や県より高い。 ○「数直線をもとに、異分分数の大小関係を考察することができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。問題文から数直線を作図する指導を継続している成果であると考えられる。 ○「四則混合の式の計算の順序を理解しているかどうかをみる」問いでは、県の正答率よりも高い。 ●「式の意味を正しくとらえ、言葉で説明することができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より低く、課題が見られる。	・朝の学習の時間を活用し、全校体制で基礎的事項の定着を図る。 ・単元に応じて、練習問題やミニテストを計画的に取り入れ、基礎学力の定着を図る。 ・数式に表すだけでなく、授業の中で自分の考えを言葉にして表す活動を多く取り入れる。
図形	平均正答率は、市や県とほぼ同じ。 ○「180度より大きい角の大きさの求め方を理解しているかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。 ○「面積の単位の関係を説明することができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率よりも高い。実際の面積の広さを実感できる授業を展開することにより、理解が深まったと考えられる。 ●「身近なものの面積と単位を理解しているかどうかをみる」問いでは、県の正答率より低く、課題が見られる。	・授業内で問題や練習問題に取り組む時間を確保し、学習の定着を図る。 ・具体物の大きさを問う授業を行うことで、児童が量感を捉えられるようになってきている。引き続き量感を意識した指導を行う。 ・教室背面の学習コーナーを活用し、面積の求め方について掲示物を工夫し、視覚的に学ぶことができる環境を整える。
変化と関係	平均正答率は、市や県よりやや低い。 ○「表を横に見ることで、伴って変わる2つの数量の関係を読み取ることができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。既習事項の比例の関係を、その後の単元でも様々な場面で取り上げ、継続して繰り返し学習している成果であると考えられる。 ●「伴って変わる2つの数量関係について分かることを説明できるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より低く、課題が見られる。	・児童が自主的に表や問題の意図を読み取れるよう、身近な題材を用いたり、操作活動を取り入れたりする。 ・練習問題に取り組む時間を確保したり、伴って変わる量の意味を児童が自分の言葉で説明する機会を設けたりして、より理解が深まるよう支援していく。
データの活用	平均正答率は、市や県より高い。 ○「二次元表の読み方を理解しているかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。算数で学んだことを他教科とも関連付け、表を読み取る経験を積んできた成果であると考えられる。 ○「示された考えをもとに、小数の加法を整数の加法に直して処理する方法を説明することができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率よりも高い。授業で、問題の解き方は、複数あることを十分に理解し、思考力が培われている成果であると考えられる。	・グラフや表から読み取った内容をグループや学級全体で話し合うことで、児童が言葉で説明しながら理解を深められるようにする。 ・1人1台端末を活用し、児童が様々な考え方に触れる機会を今後も意図的に設定していく。 ・データ活用に関する問題を身近な日常生活の場面に即した内容にし、児童が意欲的に取り組むことができるよう工夫する。

宇都宮市立雀宮東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	51.4	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	68.8	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	83.8	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	73.0	69.5	68.1
観点	知識・技能	72.7	70.8	69.5
	思考・判断・表現	68.3	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市や県より高い。 ○「乾電池のつなぎ方とその名称を理解しているかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。 ○「電流が大きくなる回路を理解し、豆電球が明るく光る回路を推測することができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率よりも高い。実際に回路を操作する経験を積みながら、学習内容を生活の中で活用できるよう指導した成果であると考えられる。 ●「簡易検流計の針のふれる向きが電流の向き、針のふれ具合が電流の大きさを表すことを理解しているかどうかをみる」問いでは、県の正答率より低く、課題が見られる。	・この領域では、基礎的事項が定着しているが、結果を考察する点で課題が見られた。今後も、実験の結果を確認するだけでなく、話し合いを通して、結果から分かることやなぜそうなったかを説明できるように指導していく。 ・復習プリントを活用して、発展的な問題に取り組みさせていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市や県より高い。 ○「ボールに空気を入れるとはずむ理由を説明できるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。 ○「水を冷やす実験の準備を理解しているかどうかをみる」問いでは、県の正答率よりも高い。実験を積み重ね、自分の生活経験とつなげられるよう、指導を継続している成果であると考えられる。 ●「空気と水を同じ量とじこめたピストンをおしたときの空気と水の様子を理解しているかどうかをみる」問いでは、県の正答率より低く、課題が見られる。	・実験結果をまとめる際に、図や表を用いてノートに分かりやすくまとめられるように指導し、考えを深められるようにする。 ・映像資料を効果的に活用し、より理解を深められるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市や県より高い。 ○「腕を曲げた時の筋肉の様子を理解しているかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。 ○「季節の変化とカエルの様子を関係付けることができるかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。動画資料や模型資料を用い、具体的な様子をイメージできるよう指導を継続している成果であると考えられる。	・基礎的事項が定着しているので、さらに復習プリントを活用して、力を伸ばしていけるように支援する。 ・映像資料を効果的に活用し、より理解を深められるようにする。 ・動植物や体のつくりについては、児童にとって身近な内容であるため、実生活と関連付けたり、実際に様子を観察したりして、より理解を深められるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市や県より高い。 ○「土の粒の大きさと水たまりのできやすさの関係を理解しているかどうかをみる」問いでは、県の正答率より高い。 ○「月の動き方と動く向きを理解しているかどうかをみる」問いでは、県の正答率よりも高い。映像資料や模型資料を用い、具体的な様子をイメージできるよう指導を継続している成果であると考えられる。 ●「天気のかめ方を理解しているかどうかをみる」問いでは、県の正答率より低く、課題が見られる。	・日頃から天気の変化について話題にするなど、関心を持たせたり、実際に空の様子を観察したりして、実体験を基にした理解につながるようにする。 ・復習プリントを活用し、繰り返し問題に取り組む。

宇都宮市立雀宮東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強している。」と回答した児童の割合は(89.2%で)、市の平均と比べて19ポイント以上高く、学校全体で実施している家庭学習パワーアップウィークや日々の自主学習カードなど、家庭と連携した取組による成果であると考えられる。今後も、学校と家庭で連携し、家庭学習の習慣化に向けた指導や啓発に努めていきたい。

○「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる。」と回答した児童の割合は(100%で)、市の平均と比べて6ポイント以上高く、日常生活の中での係活動や委員会活動への意欲付けがしっかりとされている成果であると考えられる。今後も、頑張りを認めながら意欲的に取り組めるよう、支援していきたい。

○「1か月に5冊以上の本を読む。」と回答した児童の割合は(75.6%で)、市の平均と比べて32ポイント以上高い。学校全体で行っている家読や朝の読書などの取組の成果であると考えられる。引き続き、読書の習慣化に向けた指導や啓発に努めていきたい。

○「自分の行動や発言に自信をもっている。」と回答した児童の割合は(81.0%で)、市の平均と比べて19ポイント高い。また、「クラスは発言しやすい雰囲気である。」と回答した児童の割合は(91.9%で)、市の平均と比べて9ポイント以上高い。お互いの意見を尊重する態度が醸成されている表れであると考えられる。今後も、児童の自己有用感を高められるような支援をしていきたい。

○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」と回答した児童の割合は(89.2%で)、市の平均と比べて9ポイント以上高い。児童が1人1台端末を効果的に活用して、1人1人の意見を大切にしながら、協働的な学びを実践している成果であると考えられる。今後も児童が、学びを深めることのできる授業の工夫に取り組んでいきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことが難しい。」と回答した児童の割合は(78.9%で)、市の平均と比べて16ポイント低く、課題が見られる。他教科にわたり、授業の振り返りを簡潔に書くなど、短い文章で自分の考えを表現する機会を意図的に設定していきたい。

●「時間を上手に使うことを心がけている。」と回答した児童の割合は(70.3%で)、市の平均と比べて7ポイント以上低い。日々の授業で課題に取り組む時間を児童に設定させたり、校外学習等で集合時刻を意識させたりして、時間の使い方を意識して行動できるよう、指導の充実に努めていきたい。

宇都宮市立雀宮東小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学校課題で1人1台端末の効果的な活用について研究を進めている。	・1人1台端末を授業に取り入れ、各教科で効果的に活用する。	・「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」の問いでは、県や市の肯定回答率より高い。 ・「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の問いでは、県や市の肯定回答率より高い。
・日記、作文指導	・家庭学習で、学年に応じた学校指定の用紙に、日記や作文を書き、書く力を養う。	・「国語の授業で、自分の考えを書くときに考えの理由がわかるように気を付けて書いている」の問いでは、県や市の肯定回答より高い。
・家庭学習の充実	・全校児童統一のファイルに、自主学習記録カードと音読カードを貼り、毎日の学習の記録をつける。家庭のサインと担任のサインを毎日記入し、児童の学習を励ます。	・「1日あたりの学習時間」や「家で自分で計画を立てて勉強しているか」の問いでは、県や市の平均を大幅に上回ってる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語では、「話すこと」や「書くこと」に関する問いで、県の平均より低い問いがあり課題が見られた。 ・算数では、図形に関する問いで、県の平均より低い問いがあり、課題が見られた。	・自分の考えや思いなどを分かりやすく書いたり伝えたりする力を伸ばす指導の工夫 ・日記・作文指導の充実 ・学習コーナーの活用	・どの教科においても、伝えたいことや分かったことなどを自分の言葉で分かりやすくノートにまとめたり、それを伝えたりする場面を意図的に設定する。 ・全校体制で取り組んでいる日記・作文指導を継続して行う。 ・学習で学んだことの理解をさらに深めるために、教室背面の学習コーナーに既習事項を掲示し、視覚的に学習内容が分かるよう、教室環境を整える。特に、作図の仕方や具体的な大きさや広さが分かる資料などを掲示して、児童の関心・意欲を高め、理解が深まるよう工夫する。